

## 哺乳類・鳥類

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
ハリネズミ属	捕食、競合・駆逐	・海外では鳥類の卵・雛、昆虫等を捕食して様々な影響を及ぼしており、国内での定着も確認されている。日本には地表を徘徊する肉食哺乳類が少ないために、昆虫類等を捕食することによる直接的、間接的な影響は大きいと考えられる。また、今後もさらに分布の拡大が懸念され、早期の対応が必要である。
アメリカシロフクロ	捕食、競合・駆逐	・強い捕食性を有し、国内で分布を拡大中であるため、生態系への影響は大きい。
在来種コホンジカの在来亜種を除くシカ亜科全種	遺伝的攪乱、環境改変	・コホンジカは、アカシカ、ターミンジカ、サンバールなどと遺伝的に近縁であり、アカシカはコホンジカやシロフクロとの交雑が各国で報告されている。また生態的にもコホンジカとの共通点が多く、定着すれば森林生態系の基盤である植生を採食により大幅に改変する等、生態系への様々な影響が懸念される。
在来亜種イゾリスを除くキタリス	遺伝的攪乱、競合・駆逐	・イゾリスとの亜種間交雑のおそれがあり、コホンリスとも遺伝的には近縁とされる。また本州に定着すればコホンリスとの生息空間を巡る競合も懸念される。
在来亜種イゾモモンガを除くタイリクモモンガ	遺伝的攪乱、競合・駆逐	・イゾモモンガとの亜種間交雑のおそれがあり、またモモンガとの生息空間を巡る競合などが懸念されている。
マスカレット	競合・駆逐、環境改変	・水生植物を中心に様々な動植物を捕食し、海外では大きな問題となっている。国内での定着地域が限られているが、他の地域に侵入すれば定着して分布を拡大するおそれがある。

## 爬虫類・両生類

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
コキョウガエル	捕食、競合・駆逐	・海外の各地で定着し、捕食や競合による生態系への様々な被害を及ぼしており、本種が我が国に侵入すれば、定着して在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。
キューバズツギガエル(キューバアマガエル)	捕食、競合・駆逐	・環境への適応力や繁殖力の優れた大型のアマガエルで、様々な動物を捕食すること、他のカエル類との幼生期における競合等が確認されており、我が国に侵入すれば定着して生態系に様々な影響を及ぼすおそれがある。
ウシガエル	捕食、競合・駆逐	・既に国内に広く定着しており、昆虫から爬虫類に至るまで在来の様々な生物を捕食するとともに、在来のカエル類との競合等による生態系への影響が大きいと考えられる。 ・沖縄の島嶼等、未侵入の地域に侵入すると、大きな影響を及ぼすことが懸念される。
シロアマガエル	捕食、競合・駆逐	・沖縄島に侵入し、周辺の離島にも分布を拡大しており、生息環境や繁殖場所をめぐる競合等により、在来のカエル類等に影響を及ぼすおそれがある。

## 魚類

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
ノーザンバイク	捕食、競合・駆逐	・北アメリカ、ヨーロッパ、アジア北部原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、世界各地では本種の導入・定着後に在来生物相の著しい変化が確認されている。原産地では釣魚として、日本では観賞用として利用されている。 ・冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛なため、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
マスクーバイク	捕食、競合・駆逐	・北アメリカ原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、原産地では釣魚として、日本では観賞用として利用されている。冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛なため、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
カダヤシ	捕食、競合・駆逐	・北アメリカ原産で蚊の幼虫退治のために各地に導入された。繁殖力が旺盛であり、日本でも都市近郊の水田や用水路などに定着してメダカを駆逐しており、今後もさらに分布を拡大するおそれがある。
ケツキョ	捕食、競合・駆逐	・東アジア原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、原産地では釣魚として、日本では観賞用や食材として利用されている。冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛なため、全国各地の湖沼に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
コウライケツキョ	捕食、競合・駆逐	・東アジア原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、原産地では釣魚として、日本では観賞用として利用されている。冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
ストライプトハス	捕食、競合・駆逐	・北アメリカ原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、原産地では釣魚として人気があり、日本でも一部の管理釣り場で利用されている。世界各地では本種の導入・定着後に在来生物相に影響を及ぼしている可能性が指摘されている。 ・冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
ホワイトハス	捕食、競合・駆逐	・北アメリカ原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、原産地では釣魚として利用されている。冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
バイクパーチ	捕食、競合・駆逐	・ヨーロッパ原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、世界各地では本種の導入・定着後に在来生物相の著しい変化が確認されている。原産地では釣魚として、日本では観賞用として利用されている。 ・冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の湖沼や河川に導入すれば侵入して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。
ヨーロピアンパーチ	捕食、競合・駆逐	・ヨーロッパ原産の比較的大型になる魚食性淡水魚であり、世界各地では本種の導入・定着後に在来生物相の著しい変化が確認されている。原産地では釣魚として、日本では観賞用として利用されている。 ・冬の低水温に耐えることが可能で、かつ繁殖力が比較的強く、全国各地の湖沼や河川に侵入すれば定着して在来生物相に大きな影響を及ぼすおそれがある。

## 昆虫類等陸生節足動物

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
在来種ヤンバルテナゴガネを除くテナゴガネ属全種	競争・駆逐、遺伝的攪乱	・日本にまだ定着していないが、侵入して定着すれば、生息場所である樹洞や餌となる腐植質をめぐる競争により、在来種で絶滅のおそれのあるヤンバルテナゴガネを絶滅させるおそれがある。また、遺伝的攪乱の可能性も懸念される。
アシナガキアリ	捕食、競争・駆逐	・海外では高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競争・駆逐、捕食等による他の動物への影響が知られている。日本でもすでに南西諸島に定着しており、在来の無脊椎動物に捕食や競争により大きな影響を及ぼすおそれがある。
コカミアリ	捕食、競争・駆逐	・高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競争・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られており、日本に侵入すれば生態系に大きな被害をもたらすおそれがある。
ツヤオオスアリ	捕食、競争・駆逐	・高い採餌能力と攻撃性による他種のアリとの競争・駆逐、捕食等による他の動物への影響が海外で知られている。日本でもすでに南西諸島に定着しており、在来の無脊椎動物に捕食や競争により大きな影響を及ぼすおそれがある。

## 無脊椎動物

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
在来種モクスガニを除くモクスガニ属全種	競争・駆逐、遺伝的攪乱	・アメリカやヨーロッパでは定着して競争等により在来種の減少等の影響を与えており、生態系に与える影響は大きいと考えられる。特に、わが国では、在来のモクスガニとの交雑及び病原菌の感染により著しい影響を与えるおそれがある。
アスタクス属 ( <i>Astacus</i> 属)	競争・駆逐、捕食	・冷水温を好むため、在来種であるニホンザリガニの生息する東北や北海道に定着する可能性が高い。特にターキッシュレイフィッシュは繁殖力が旺盛で、西ヨーロッパ諸国で在来のザリガニを駆逐しており、国内に定着すればニホンザリガニと競争し、駆逐するおそれがある。
ウチダザリガニ(亜種クカイザリガニを含む)	競争・駆逐、捕食	・在来種であるニホンザリガニとの競争及びザリガニカビ病を蔓延させるおそれがある。また、様々な在来の底生生物や水草を捕食することによる生態系への影響も大きい。
ラスティークレイフィッシュ	競争・駆逐、捕食	・アメリカでは、国内移入種として在来のザリガニ類と競争し駆逐しているうえ、捕食および他の生物の生息空間を攪乱することで、淡水生態系に甚大な影響を及ぼしている。また、ヨーロッパ諸国においては、ザリガニカビ病により在来のザリガニ類の死亡率を著しく高め、個体群を壊滅させるほどの被害を与えており、我が国に定着すれば在来のニホンザリガニが絶滅するおそれもある。
ケラクス属 ( <i>Cherax</i> 属)	競争・駆逐、捕食	・攻撃的で大型になる種が多いザリガニ類で、温暖な亜熱帯地域から冷水域まで幅広い地域に定着する可能性が高く、これらの地域の生態系を大きく攪乱するおそれがある。
ヤマヒタチオビ(オカヒタチオビガイ)	捕食	・ナメクジ、カタツムリ等を捕食する肉食性の巻貝で、諸外国でも多くの陸産貝類を絶滅の危機に追い込んだ実績があり、わが国でも小笠原で固有の陸産貝類に甚大な影響を与えている。
カワヒバリガイ属	競争・駆逐、環境改変	・カワヒバリガイ属の一種であるカワヒバリガイはすでに国内の一部に定着しており、付着による生態系基盤の改変や在来の二枚貝類の駆逐のおそれがある。また、吸虫類の第一宿主としての魚病被害の発生による在来魚類への重大な影響が懸念される。海外でのカワヒバリガイ <i>L. fortunei</i> としての被害知見の多くには、カワヒバリガイ類数種が含まれている可能性が高く、また、既知の <i>Limnoperna</i> 属の各種は足糸による基質への固着習性を持つなど、共通の生態的特徴を備えているため、他の種類も侵入すれば同様の被害を与えると考えられる。
カワホトキスガイ(セブラガイ)及びクワガガイ	競争・駆逐、環境改変	・爆発的に増殖して様々な基盤に付着することから、五大湖などで大発生して、淡水生態系に対し深刻な被害を与えており、日本へ侵入・定着すれば同様の被害の発生が懸念される。
ニューキニアヤリガタリクスムシ	捕食	・貝類を捕食するコウガイビルの中で、諸外国でも多くの陸産貝類を絶滅の危機に追い込んだ実績があり、琉球列島や小笠原諸島に侵入し小笠原のカタマイマイ類等の固有陸産貝類に甚大な影響を与えている。

## 植物

特定外来生物の指定対象とすることが適切である外来生物	被害の概要	評価の理由
アゾラ・クリスタータ	競合・駆逐、遺伝的攪乱	・在来種のアカウキクサとオオアカウキクサは絶滅危惧種で、これらを含む水生植物との競合や駆逐のおそれがある。 ・近縁種である絶滅危惧種の遺伝的攪乱のおそれがある。
オオササモ	競合・駆逐	・各地の湖沼や水路等で大繁茂がみられ、在来の水生植物等との競合や駆逐のおそれがあることから、駆除が行われている。 ・水質浄化等の目的で意図的な導入が行われているため、今後も分布を拡大するおそれ大きい。
アレチウリ	競合・駆逐	・河川敷等でみられる大型のつる性の植物で、河原の固有種を含む他の植物を被陰するため競合や駆逐のおそれがあり、各地で駆除が行われている。
オオキンケイギク	競合・駆逐	・ワイルドフラワー緑化等に広く利用され、各地の河川等で繁茂して、河川敷固有の植物等の在来種との競合や駆逐のおそれがある。
オオハングソク	競合・駆逐	・自然性の高い環境への侵入が多くみられ、希少種を含む在来植物との競合や駆逐のおそれがあることから、各地で駆除が行われている。
ナルトサワキク	競合・駆逐	・日本に侵入して間もないにもかかわらず急速に分布を拡大しており、海外では侵略的な種類として問題になっていることから、在来種と競合するおそれ大きい。
オオカワヂシャ	競合・駆逐、遺伝的攪乱	・近縁で準絶滅危惧種のカワヂシャと交雑して雑種を形成することが野外で確認されており、在来種の遺伝的攪乱が生じている。
ホトタウキクサ	競合・駆逐	・浮遊性の水草で、栄養繁殖により急速に繁茂し、水面を覆い尽くして光を遮ることで、在来の水生植物の生存を脅かすとともに、水生生物への悪影響のおそれがあるため、防除が行われている。
スバルティナ・アングリカ	競合・駆逐	・日本には侵入していないが、海外では急速に分布を拡大するなどして問題になっている。日本に侵入した場合、希少な環境である汽水域の在来植物と競合するおそれがある。